

【 2023 年度 聖隷こども園・保育園 施設関係者評価 】

目的：浜松磐田地区の聖隷こども園・保育園が、お互いに客観的な視点で施設評価を行うことで、保育の資質向上を目指す。

【保育・教育理念】

聖隷の保育・教育理念が、日常の保育・教育に反映されているか。

- ・愛されて、愛する心を知り、お互いが大切な存在であることを知る。
- ・一人ひとりの違いに気づき、お互いを認め合いながら共に主体的に生活する。
- ・自己発揮できる環境の中で創造性を育てる。
- ・在園、地域の子育て家庭が、心豊かな環境で子育てできるように支援する。

それぞれのクラスで、年齢発達に合わせた関わり合いの姿が見られ、職員 1 人ひとりの子ども達への関わりから温かさを強く感じた。その関わりの姿勢から、子どもたちも落ち着いてのびやかに過ごす姿が見られ、保育・教育理念が反映されているように感じる。

【人権尊重】

常に子どもの立場に立って、子どもの成長に最善となるような取り組み（関り・配慮）がなされているか。

それぞれのクラスでクラスの保育について話し合いをしたりしながら“子ども達にとって”という視点で保育を展開する姿勢が見られる。

また、幼児クラスではこども会議を通して子どもたちの思いを聞き、その思いを尊重した活動・遊びが展開されている。

【情報保護】

個人情報の保護は適切であるか。

入園の際に個人情報同意書の記入をしてもらったり、園外の施設のプログ等写真掲載についても同意を確認するアンケートを実施したりしており、個人情報の保護に努めていると感じる。

【苦情対応】

意見や苦情に対して、適切な対応ができていますか。

保護者の方からご意見をいただく際には、園長主任で子どもを中心に考えた上で相手の思いも聞きながら、お話をしているとのことであるため、適切に対応をしている。

【保健・衛生】

園児の感染症等の情報提供、日常の健康観察や感染症の拡大防止等の取り組みがなされているか。

園内で流行している感染症の掲示を基本に保護者に情報提供をしている。感染症の拡大が見られた際にはコドモンにて配信をしているとのこと、2段階に分けて情報提供をしているため、保護者にも分かりやすい注意喚起の方法を実施している。

【安全】

救急・防犯・避難訓練等を通して、職員・園児の安全対応能力の向上を図るための取り組みがなされているか。

園外に散歩に出かける際は園児の名簿を使用し、子どもの確認がしやすいように工夫をしている。また、クラスによっては園庭と室内に分かれて過ごすこともあるため、ホワイトボードやマグネットボードを使用して把握をしている。

耐震対策について強化中との話も聞いたため、耐震対策について工夫をしていけると良いと感じた。

【運営】

施設・設備の環境や管理等、運営は適切になされているか。

玄関から温かい雰囲気と、整理された絵本コーナーが見られ、常に整理整頓や掃除をして管理されている印象を受けた。

設備の修理については内容に応じてその都度対処しているとのこと、適切であると感じる。

【環境美化】

園内外の清掃、物の整理整頓等、清潔で整然とした環境になっているか。また、季節感等が

感じられる工夫がなされているか。

園内外も掃除が行き届いており、清潔感を感じる。子ども達の作品が飾られていたり、給食室にも季節感の溢れる掲示がしてあったりと、様々な面で工夫をされていると感じる。

【保育室】

室内の環境が子どもの発達に合わせて工夫され、玩具等適切に配置されているか。

それぞれのクラスで、子どもたちの興味に合わせた玩具やコーナーが用意されており、どのクラスも子どもたちがじっくりと遊びを楽しんだり、落ち着いてのびやかに生活をしたりする姿が見られた。

【保育内容】

全体的な計画に基づき、「歳児別保育目標」を意識した保育が展開されているか。

0 歳児

- ・ 神さまから預かったいのちとして大切にされる
- ・ 大人の愛情に包まれ、安心して過ごす
- ・ 意思がしっかり受け止められ、安心して自分らしさを出す

1 歳児

- ・ 保育者の祈りや讃美することを通して、神さまに出会う
- ・ 歩行と共に行動範囲をひろげ、興味・関心をひろげる
- ・ 神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる
- ・ 全身を使ってあそび、言葉や身振りで自分の思いを表す

2 歳児

- ・ 神さまや周りの人たちに守られ、愛されていることを感じる
- ・ さまざまなことに興味・関心を持ち、保育者や友だちの中であそびを楽しむ。また、生活面の自立ができるようになる。

3 歳児

- ・ 保育者や友だちと一緒に讃美歌を歌うことやお祈りをすることを喜ぶ
- ・ あそびを通してイメージを広げ、社会や自然を理解し、友だちとあそぶことの楽しさやルールの大切さを味わう

4 歳児

- ・ 保育者や友だちと礼拝を守りながら日々を歩む

- ・あそびを通して基本的な自然や物事の特徴を知り、友だちとのかかわりを通して葛藤を乗り越え、集団生活を豊かにする

5 歳児

- ・一人ひとりが神さまから違った良いものをいただいていることを認め合って過ごす
- ・共同的な活動を通して、子どもたちが自分の役割を知り、互いに認め合いながら、主体的に行事やクラスの運営を行う

3 歳児のクラスでは、こども会議の時間に子どもたちから出た「讚美歌の歌詞の意味」について考えてみる機会を持ったとの話を面談で聞き、3 歳児の保育目標につながるよい機会であったと感じた。こども会議については内容によって全員で話をする時や 2 グループに分かれて話をするところであったが、大きな集団の中では見られない子どもたちの姿や発信の仕方もあると感じるため、できるだけ少人数のこども会議の持ち方も考えていけると良いと思う。

また、1 歳児の食事の時間に 1 人の職員が一時的に 2 つのテーブルの子どもたちをみる時間帯ができていた。生活の場面では子どもの発信をできるだけ受け止めていけると歳児別保育目標にある、「神様や周りの人たちに守られ、愛されていると感じる」という部分により近づけると感じるため、時間差をつける等の工夫ができるとよりよい保育になっていくのではないかと感じる。

【全体を通して】

職員の関係性もよく、子どものエピソードを語り合ったり、子どもたちが今何に興味を示して楽しんでいるのかを捉えながら保育環境の見直しを行ったりしていることで、それぞれのクラスで子どもたちが落ち着いてじっくりと遊びを楽しみ、生活する姿が見られた。

衛生委員会や危機管理委員会を毎月実施し、各クラス 1 人ずつ参加をしているとのことで、園全体で考えあう姿勢が見られ、とてもよいと感じた。1 つ 1 つの事柄について“子どもにとってどのようにしていけるとよいのか？”を中心に行事の在り方などを話し合い、考えあう職員の姿勢が、保育にも子どもたちへの関わりにもつながっているように感じる。

評価日 2023 年 11 月 28 日

評価者 園 名 聖隷こども園こうのとり豊田

役 職 主幹保育教諭

氏 名 杉田 愛都